





図2 北海道と欧州を重ねたイメージ

**北海道はでっかいなあ実感する数値をさがすと…北海道は農業村的地域の人口密度が極端に低い**

「北海道の広さ（でっかい！どう）」に感動する代表的な場面とは、道東方面のどこまでも続く地平線、広大な草地、牛の放牧風景、給油をしないまま走っていてどこまで行っても見つからないガソリンスタンド、110km先に大型スーパーの所在を知らせる案内看板などなど。

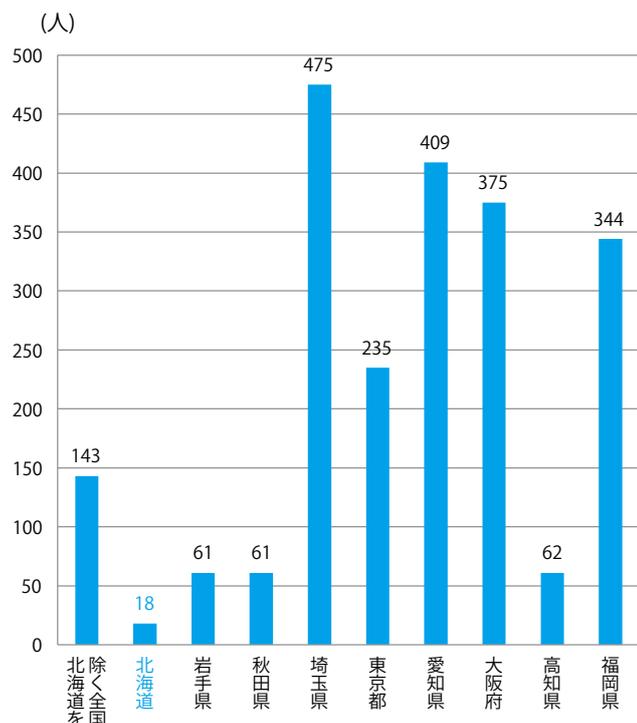


図3 非DID地区に住む人々の割合（非DID地区人口密度）

見方を変えると、「でっかい面積にあまり人や人の活動がない」ことになる。

北海道をでっかいと感じる特徴は、面積が大きいだけでなく、人や産業活動の集積度が低いことに由来している。これを統計で示そうとすると意外に難しい。

そこで、北海道の広さを実感する代表的な光景のひとつとして、「どこまでも広がる農村に人がまばらにしか住んでいない」ことを、一つの数値で表そうと試みた。

左のグラフが示すように、人口集中地区（DID）以外の地域の人口密度をみると全国平均(北海道を除く)で143人ものが住んでいるのに、北海道には全国平均の1割程度の18人しか住んでいない。北海道以外でもっとも密度の低い岩手県・秋田県や高知県でも61～62人（北海道の3～4倍）ものが住んでいて、北海道の非DID地区、農村地域が飛びぬけて人口密度が低いことがわかる。

人が住んでいない地域が延々と続き、ぐるっと地平線などが見渡せると北海道は「でかい」と感じるのである。

※ 「人口集中地区」とは、市区町村の境域内において、人口密度の高い基本単位区（原則として人口密度が1平方メートル当たり4,000人以上）が隣接し、かつ、その隣接した基本単位区内の人口が5,000人以上となる地域。昭和35年国勢調査の際に、この「都市的地域」の特質を明らかにする新しい統計上の地域単位として「人口集中地区」が市区町村の境域内に設定された。

※ 表は総務省統計局日本統計年鑑のデータを使用して作成